



## 中国雲南省・麗江

# 守り続けた伝統が 納西族の経済資産

世界銀行タスク・チーム・リーダー 鎌田卓也

## WATCH FIRE

【開発途上国の明日】



**中** 国雲南省の麗江旧市街はユネスコ認定の世界文化遺産である。標高5000mを超える玉龍雪山のふもとに抱かれ、独特の建築様式と掘割の街並みが美しい。住民の納西族は象形文字を継承し、固有の伝統文化は高く評価されている。

世界遺産登録から10年、同市を訪れる観光客は4倍に増えた。現在は年間450万人と推定され、友好都市である岐阜県高山市の観光客数420万人を上回る。駐車場には中国人団体客の観光バスが並び、土産物屋の繁盛ぶりは京都の清水三年坂を思わせる。市民の年収も同省平均の2倍、約20万円に達した。貧しい少数民族の多い中、この発展ぶりはなよりのことだ。

納西族の人々は近年郊外に移り住む傾向にある。旧市街の自宅を店舗として貸すと、大変良い収入になるからだ。それに、景観保護のため改築もままならぬ伝統家屋より、郊外の近代住宅のほうが快適なのである。ほとんどの店は浙江省など他省出身者に任せてあるという。

大事にしてきた伝統が、大きな経済資産になった納西族。一方で、発展を維持しながら民族文化をどのようにに保持するのか、改めて考える時期を迎えているという声もある。何はともあれ、麗江は今日も深夜まで満員御礼のにぎわいである。

(写真はYoonhee Kim)